

あれつし通信



Tel. / Fax 0493-62-7997
<http://space.tom-shibuya.com>
 e-mail 713@tom-shibuya.com

渋谷とみ子の議会報告No.69

真の文明は、山を荒らさず、川を荒らさず、 村を破らず、人を殺さざるべし—田中正造より—

●今の快適さが将来の負担

ドイツは、脱原子力発電を決めました。今の世代の利便が後の世代の大きな負担になることは倫理上許されないとの理由です。アメリカ・ヨーロッパ・ロシアは地震が頻発する地域に、原発はありません。

●世界に放射能汚染を広げた日本

日本は、被ばく国でありながら、歴史的にはアメリカ、ロシア、日本と3番目に、世界中に大量の放射性物質を放出した国です。人類は、原爆と原子力発電所を作ってはいけなかったのです。福島原発の事故で、大気・土壌・海洋に広がった放射能は、呼吸や人の食べ物として、人の身体にはいります。原爆投下のあと、アメリカは原爆投下の外部被ばくだけを問題にし、放射能の恐ろしさを隠しました。放射能の内部被ばくは、次世代に続きます。

●放射能は遺伝子を傷つける

内部被ばくは、放射性物質が身体にはいって、身体の臓器や骨や血管にくっついて、そこから放射能を出し続け、遺伝子を傷つけます。

短い間だと、遺伝子は回復して、正常に戻ります。が、長い間、身体にとどまった放射性物質は、遺伝子を傷つけ続け、遺伝子が回復できなくなります。

●チェルノブイリ事故後 25年でわかったこと

ベラルーシでは、子どもの身体に放射性セシウムが蓄積し、ガン発症や次世代のこどもへ影響が続き、不妊・健康ではない子どもの出産が多くなりました。

●核種によって異なる半減期

ヨウ素は半分に減るのが8日間、ストロンチウム134は、半分に減るのに2年間、ストロンチウム137は、半分に減るのに30年間、プルトニウムは半分に減るのに2万4千年。

●安全神話で情報が隠されています。

電力会社は、発電も送電も独占し、莫大な利益があり、政府、官僚やマスコミ、学界を操作し、原発に代わる再生可能エネルギーへの転換を難しくしています。マスコミが原子力発電にかかる負の情報を提供せず、国は原発推進側の学者を活用し、「安全」と情報操作するため、安全な環境が狭くなっています。

●埼玉県に瓦礫搬入はNO!

福島原発事故で広がった放射能汚染の瓦礫を広域処理すると汚染地域が広がります。安全でない地域の子どもの汚染のより少ない地域で生活できるように協力し、生命を守るために瓦礫受入れに反対します。

